

# 望ましい農業・農村づくりに向け始動

## 湖北農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

米原・近江地域の中心となる担い手である(有)親和は、経営拠点である世継集落内の49haの他、近隣13集落で50haの農地を集積する大規模土地利用型経営を展開しています。

同社への農地集積が進む集落では、農業基盤の保全管理や獣害対策等の一切を担い手に委ねようとする考え方が進み始め、(有)親和の経営発展に影響を与えつつあります。

こうした土地持ち非農家の増加に伴って顕在化する問題は、湖北の担い手対策を考えるうえで重要なテーマと判断し、農地集積が75%に達している世継集落において、担い手と集落が互いに補完し合う新たな農業・農村モデルを構築できるよう活動を行いました。

### 【普及活動の内容】

(有)親和に対し、世継集落での営農活動で発生している影響を具体的に聞き取ったところ、土地持ち非農家が増えたことによって、農道や用排水路等の保全管理意識が薄れ始め、結果として受託者が保全管理作業を背負うケースが増え、規模拡大の障害になりつつあることがわかりました。



KJ法で集落の現状や課題を整理（役員会）

本年度の活動は、世代交代が進むにしたがって、その傾向はより強まると予測されたことから、担い手だけでなく集落の問題として捉えていただくために、世継農業組合農用地保全部（耕作者・土地持ち非農家110戸で構成）に対する問題提起から始め、月1回開催される役員会において、現状の分析、全世帯に対する意向調査の実施と課題整理、取組の方向性を議論できるよう誘導しました。

### 【普及活動の成果】

意向調査の結果、農業離が進む一方で、「資産管理は必要である」との回答が各世代から得られたことから、今後、農業組合を中心に農業イベントを開催するなど、農業・農村への意識を徐々に高めていくこととなりました。

さらに、担い手と農村の持続的発展に向けた「世継農村振興ビジョン」を作成することが農業組合総会で合意されました。

表 農道や用排水路等の資産管理の必要性についてのアンケート

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
必要だと思う	0	14	19	26	78	114	251
必要ないと思う	1	4	3	8	9	11	36
その他	0	7	3	4	6	2	22
無回答	0	0	2	2	1	11	16
合計	1	25	27	40	94	138	325

(回答者325名、回収世帯率93%)